

# まちづくり スローライフの

## 催しを多彩に遠野らしさをアピール

**地域の価値を再認識**

スピードと効率を追求し続けた社会の中で、人間性の喪失、環境の破壊、地域の衰退などの問題が新たに生まれました。

その反省から人間性の回復、地域の価値の再評価などを目指した「ゆつくり、ゆつたり、心豊かに」をキーワードとしたスローライフの動きが広がっています。

そんな中、自然と共生を図り、先人から受け継いだ遺産を大切にしてきた遠野で九月から十一月にかけて「スローライフ月間 in 遠野」を開催します。

地域の自然、歴史、伝統、文化の大切さ、真の豊かさをはぐくみ、遠野という地域の価値を再認識してみませんか。

市は人材の育成、市民と行政の協働による「スローライフ」を意識した遠野ならではの

**序章**

「スローライフ月間 in 遠野」は九月を序章と位置付け、九月十六、十七の両日に開催される「遠野まつり」を皮切りに、二十七日には「加藤登紀子コンサート」を行うなど、さまざまなイベントを企画しています。

**本章**

本章と位置付けられた十月は、合併一周年記念式典において、環境にやさしいキャンドルを使った「ふるさと遠野」を語る趣向が考えられています。キャンドルは、月間内事業に花を添えることでしよう。

二十二日には、ユースキャスターの筑紫哲也さんによる講演などのシンポジウム



ふるさと交流課長  
**佐々木 政嗣**  
ささき・まさつぐ

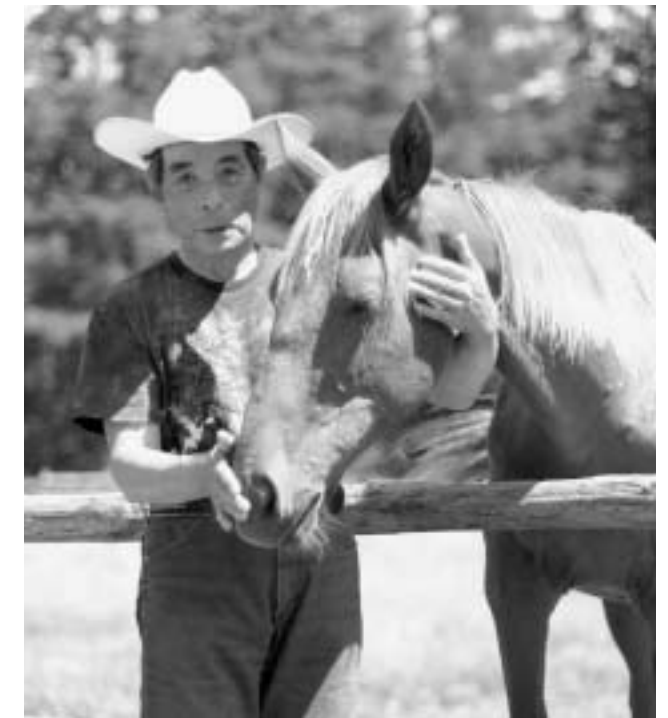
市は「スローライフ月間 in 遠野」を市内の各分野40団体と行政の協働による実行委員会を設立し、「スローライフ」を意識した新しいまちづくりと、遠野ならではの豊かなライフスタイルを目指して推進しています。

この事業は、新遠野市誕生一周年を記念した事業でもあることから、未来に向けて「環境によく、いつまでも永遠に続く、地域に根ざした豊かな暮らし」を皆さんと一緒に考える機会にしたいと思っています。

また、十月中の土・日曜日には「まちなか賑わいイベント」を行うほか、「全国ホースサミット」や馬蹄を投げる競技「ホースシューズ大会」も開催します。

**終章**

終章となる十一月は、英国農家民宿の第一人者ジュリエットさんの講演や、団塊の世代らをターゲットにした馬付き住宅の内覧会を開催するなど、遠野らしさを内外にアピールしていきます。



高橋 眞さん

●たかはし・まこと  
岩泉町出身。日産自動車にエンジニアとして勤務。退職後、遠野に移り住み、平成10年、松崎町駒木に「駒木越冬牧場」を開牧。71歳

### 変化を恐れない

「自然に恵まれたこの遠野で動物と触れ合いながら生活すること」。自分にとつてのスローライフをこう話す高橋眞さんは、自宅近くの小高い丘に厩舎を構え、子馬たちを育てています。

馬との出会いは少年時代にさかのぼります。祖母の家が馬にいて鉄を着ける仕事をしていたことから、馬と触れ合い、友達になった高橋さんは「いつの日か馬を育てたい」と夢を抱くようになり、遠野でその夢をかなえました。

**スローライフを体感**

今年の五月、東京都練馬区の東京学芸大学付属大泉中学校の三年生百三十九人が修学旅行で遠野を訪れました。高橋さんの厩舎には十二人が訪れ、馬に餌を与えたり、ブラシがけをするなど体験学習に取り組みました。

子どもたちが体験を終え、帰るためにバスへ乗り込んだとき、馬たちが一斉に鳴き始めた。高橋さんは「初めて見る光景に驚きと感動を覚えましたが、子どもたちもスローライフを味わったと思います。私もスローライフを味わいました。感動する場面を作ってくれる。これがスローライフではないかと思えます」。

さまざまな馬事振興事業にボランティアとしてかわり多忙な毎日を送る高橋さん。「忙しいからこそスローライフが楽しい。忙しいとき、のんびりするときに、そのめりはりがわたしにスローライフを感じさせてくれます」と話しています。

日産自動車のエンジニアとして働き、プロジェクトのリーダーも務めた高橋さんは「変化することを恐れませんが、百八十度反転した今の生活を楽しんでいきます。高橋さんのライフスタイルの基本は自然を活用すること。『自然をいかに活用するかがスローライフのポイント』と話します。

「わたしの場合、馬とのかわりにスローライフを見出しています。それぞれ個性のある若い馬たちに人間を信頼させること。そこには戦いがあり、その戦いで馬を育てる面白さを感じます。日々、挑戦です」と笑顔の中に揺るがない自信を感じます。

## 自然をいかに活用するかがわたしのスローライフ

# スローライフを 実践